

製品名: CD1e ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08264**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	CD1E
別名	CD1E; T-cell surface glycoprotein CD1e; membrane-associated; hCD1e; R2G1; CD antigen CD1e
遺伝子 ID	913.0
SwissProt ID	P15812
免疫原	抗血清はヒト CD1E 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 217-266

背景

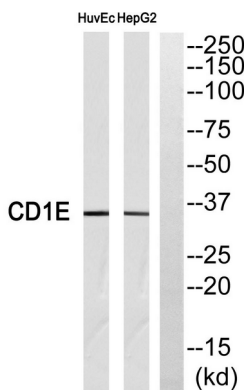
この遺伝子は、膜貫通糖タンパク質の CD1 ファミリーのメンバーをコードします。CD1 ファミリーは構造的に主要組織適合遺伝子複

合体 (MHC) タンパク質と関連しており、 β 2 ミクログロブリンとヘテロ二量体を形成します。CD1 タンパク質は、主に自己または微生物由来の脂質抗原と糖脂質抗原を T 細胞に提示する役割を果たします。ヒトゲノムには、1 番染色体上にクラスターを形成する 5 つの CD1 ファミリー遺伝子が含まれています。CD1 ファミリーのメンバーは、細胞内局在と特定の脂質リガンドに対する特異性が異なると考えられています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ゴルジ体、エンドソーム、リソソーム内に局在し、安定した可溶性形態に切断されます。この可溶性形態は、一部の糖脂質を他の CD1 ファミリーメンバーによって提示できる形態に細胞内で処理するために必要です。異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた多くの転写バリエーションが報告されている。機能: 細胞表面への糖脂質抗原の提示に必要。PTM: モノユビキチン化されている。PTM: エンドソーム内でタンパク質分解により切断され、可溶性タンパク質となる。類似性: 1 つの Ig 様 (免疫グロブリン様) ドメインを含む。細胞内局在: 未熟樹状細胞では主にトランスゴルジ体ネットワークに局在し、成熟樹状細胞では切断された可溶性タンパク質としてリソソーム腔内に局在する。サブユニット: B2M (ベータ 2 ミクログロブリン) とのヘテロ二量体。組織特異性: 皮質胸腺細胞、樹状細胞、ランゲルハンス細胞、特定の T 細胞白血病細胞、および他のさまざまな組織で発現する。、

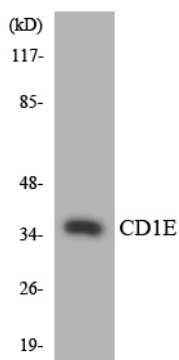
研究分野

造血細胞系統;

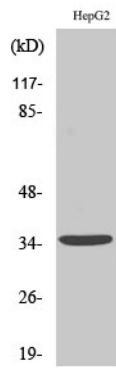
画像データ



CD1E 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが CD1E ペプチドでブロッキングされている。



CD1E 抗体を使用した RAW264.7 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CD1e ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析